

## 低学年における「書くこと」の指導の工夫 ～ワークシートを活用した作文指導を通して～

那覇市立古蔵小学校教諭 伊波 育美

### テーマ設定理由

大きく変化する現代社会において、情報に関する分野の発達は著しく、情報伝達方法の多様化とともに、パソコンやメール等による伝達が簡単に行え、便利になってきた。そのことによって、文や文章が記号化され、実際に書いて伝えることが減少してきている。

小学校学習指導要領解説国語編 第1節 第1学年及び第2学年「書くこと」の目標では「経験した事や想像した事などについて、順序が分かるように、語や文の続き方に注意して文や文章を書くことができるようにするとともに、楽しんで表現しようとする態度を育てる。」とある。小学校1・2年生の「書くこと」の基礎・基本として順序が分かるように書いて楽しむことができることをめざしている。

書くことは、大越によれば「思考したこと、想像したことを文字によって伝達するのが書くことである。換言するならば、自己の内面にあるものを、自分なりにまとめ、相手に伝えるために外に出すことになる。」と述べている。

私の実際の作文指導を振り返ってみると、「書くこと」の基礎的・基本的な指導の不足と同時に豊かに表現するための指導も十分とはいえなかったことがあげられる。そのため、児童は、書く場面では、「何を、どう書けばいいのかわからない」等、原稿用紙を前に頭を抱える場面が見られた。

本学級児童の国語科意識調査（平成17年5月）によると、「こくごのべんきょうで、にがなものがありますか」の問いに「じぶんの考えやおもっていることを作文に書くこと」が34%と多く、さらに、「文を書くことはたのしいですか」の問いに、「やや苦手」28%、「苦手」21%と約半数の子が苦手意識を持っていることが伺える。

このことから「書くこと」や、書くことが楽しいと感じさせるための適切な表現方法や取材・構成についての指導の工夫が必要だと考えた。

そこで、「書くことに慣れさせる」「取材」「構成」等のワークシートを作成し、それらを活用することにより「書くこと」への苦手意識を和らげ、楽しんで書こうとする態度が育まれるのではないかと考え、本研究テーマを設定した。

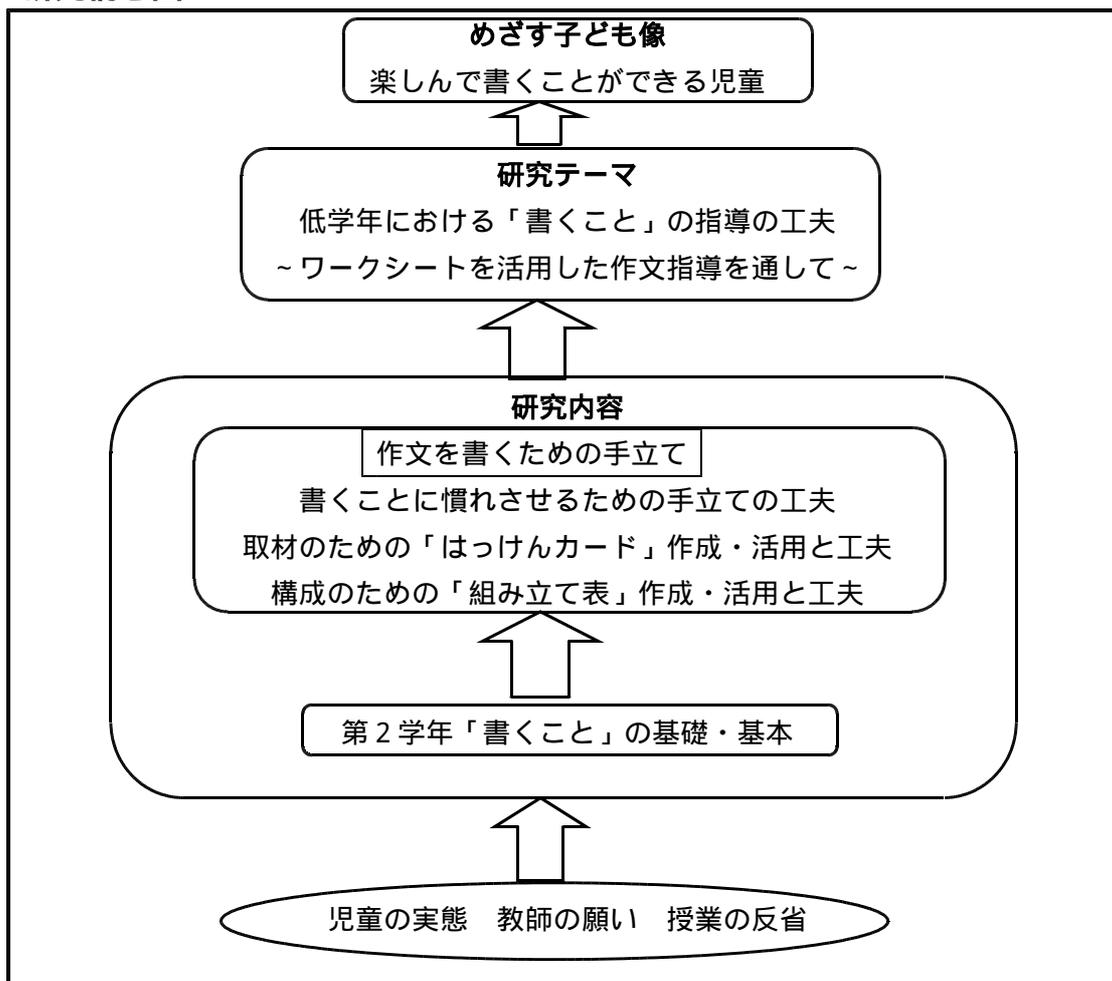
### 研究目標

書くことの基礎・基本を踏まえ、ワークシートの活用を通して、楽しんで書こうとする態度を育てるための指導の工夫について研究する。

### 研究方針

- 1 第2学年「書くこと」の目標を踏まえ、基礎・基本を明らかにする。
- 2 楽しんで書く態度を育てるためのワークシートや手立てを工夫する。

## 研究構想図



## 研究内容と方法

### 1 第2学年「書くこと」の目標と基礎・基本

小学校学習指導要領解説国語編の第1・2学年の指導事項「B書くこと」の目標に「経験した事や想像した事などについて、順序が分かるように、語や文の続き方に注意して文や文章を書くことができるようにするとともに、楽しんで表現しようとする態度を育てる」ことが述べられている。さらに、「B書くこと」内容は、下表の通りである。

表1

- |  |
|--|
| (1) 書くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。 <ul style="list-style-type: none"><li>ア 相手や目的を考えながら、書くこと。</li><li>イ 書こうとする題材に必要な事柄を集めること。</li><li>ウ 自分の考えが明確になるように、簡単な組み立てを考えること。</li><li>エ 事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書くこと。</li><li>オ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに注意すること。</li></ul> |
|--|

2年生の作文指導を行う際には、自分の考えと、事柄の順序が分かる文章を書くために取材する力を身につけることが重要である。そのためには、情報を収集、整理し簡単な組み立てを考えることが書く力につながるものと考えられる。

そこで、取材メモを通して自分の考えが分かり、順序立てて作文を書く力を低学年に育むために「簡単な組み立てを考えて文章を書く」ことに指導の重点がおかれた教科書教材「たんけんしたことを」での授業の工夫を試みることにする。

## 2 楽しんで書く態度を育てるための手立て

低学年の児童が楽しんで書く態度を育てるためには、書くことに慣れさせるための指導の工夫（原稿用紙の使い方、表現力や想像力）や、取材、構成の手立てを図る工夫が必要と考える。以下、それぞれのワークシートを作成し、授業展開において活用する。

### (1) 書くことに慣れさせるための指導の工夫

作文の基礎・基本を定着させるための指導の工夫

低学年の児童が作文を書くためには、原稿用紙の正しい使い方が必要だと考える。さらに、詳しく豊かな表現をするためには表現力や想像力等を身につけることも大切ではないかと考えた。そこで、基本的なことについて定着を図るために3種類の「ワークシート」を作成し活用した。

表2 作成したワークシートの種類

ワークシートの種類	育てたい力	ワークシートの効果
原稿用紙の使い方練習用	・正しく表記する力 (・題名・氏名・書き出し ・かぎの使い方・句読点)	題名・氏名をすぐに記入し本文に移る準備ができる。
短文作り(比喩)	・表現力	「はっけんカード」に調べたことを詳しく表現できる。
連想ゲーム練習用	・想像力	

助詞を正しく使わせるための指導の工夫

低学年児童の文章には、主語と述語のねじれた関係が存在している場合がある。文を書くためには、「主語と述語との関係」が基礎になるが、主述がねじれていると読み手に伝えることが困難になる。主述のねじれを起こさせないためには、正しい助詞の使い方の定着を図ることが必要である。

そこで、助詞の使い方に興味・関心を持たせ定着させるために「て・に・を・は そいや! そいや! ゲーム」『ワークショップ型授業で国語が変わる 小学校』(上条晴夫編著)を実施する。

表3 「てにをはそいや! そいや! ゲーム」

<b>ねらい</b>	「てにをはそいや! そいや! ゲーム」で、助詞の使い方に慣れる。	
<b>授業のコツ</b>	まちがいを楽しみ、まちがえることからさまざまな発見を促す。	
<b>活動</b>		
5人で1列に並ぶ。		次の子から ~ を繰り返していく。
先頭の子が、お題(「犬」などの言葉の末尾に「てにをは」がつく言葉を使う(「犬は」)		もし言えなかったり、意味がおかしな文になったり、リズムがあわない場合は、ストップする。
全員で「そいや! そいや! 」と合いの手をリズムよく入れる。		<b>見取りのポイント</b>
2番目の子が「犬は」に正しく続く言葉(「走る」などを考えて言う。)		・間違いを間違いとして切り捨てず大切に切り上げる。
全員で「そいや! そいや! 」		出典・参考・テレビ東京「おはスタ」

このゲームは、2年生の発達段階を考慮し、前もって「お題」を予告するとよい。

(2) 取材・構成の手立てを図る工夫

取材用ワークシート「はっけんカード」の作成及び活用

作文学習の「取材」とは、主題に沿って材料を集めたり選んだりする活動と捉える。児童には書こうとする題材に必要な事柄について集めることを分かりやすく指導する。「はっけんカード」作成の留意点として、児童が五感をふんだんに使えるよう、鼻・口・耳・目・手のマークと、それを通して思ったことを書けるようにハートマークを使うこと、さらに、 から の番号を付けることで取材の順序が分かるようにする。取材前に使い方の練習をする。

構成用ワークシート「くみたてひょう」の作成及び、活用

「構成」は作文を書く過程において、取材メモを活用し文章全体の組み立て方について思考する段階であると考え。低学年においては1年生で、「主語と述語を使っての短文作りの学習」、2年生で出来事の順序や場面の移り変わりを考えながら読む学習を行っているが、必ずしも十分とは言い難い。児童に構成について理解させ基本的な流れである、はじめ・中・おわりを取り入れた「くみたてひょう」を作成し活用する。

実際の指導過程としては、まず題名及び、一番知らせたいことを書く。次に具体的な内容について「はじめ」の欄には伝えたいこと、「中」の欄には、一番知らせたいことを詳しく「おわり」は自分の感想を書くこととする。

## 授業実践

1 単元名 「見つけた ことを 書こう」

2 教材名 「たんけんした ことを」

3 単元目標

探検して調べたこと、発見したことについて、必要な事柄を集め、簡単な組み立てを考えて文章を書く。

【国語への関心・意欲・態度】

- ・ 探検で発見したことをメモし、作文に書く材料を集めようとしている。

【書く能力】

- ・ 書こうとする題材に必要な事柄を集めること。取材
- ・ 自分の考えが明確になるように、簡単な組み立てを考えること。構成
- ・ 事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書くこと。記述
- ・ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに注意すること。推敲・評価

4 単元について

(1) 教材観

本教材は、情報を収集し、「しらべたこと」や「発見したこと」を書くという、作文教材である。

本学級では、5月に「わたしの日記帳」で作文を書くときに書きためた教材の中から、題材を見つけられることを学習した。

そのことを受け、本単元では、「必要な事柄を集め、簡単な組み立てを考えて文章を書く」ために「整理して」書くことを目標として「はっけんカード」を活用し、自分の考えが明確になるように、簡単な組み立てを考えること」を身につけさせるための教材となっている。

(2) 児童観

5月に実施した作文に関する実態調査から以下のことが分かった。

文を書くことに対して「とても楽しい・楽しい」と「ややにが手・にが手」が半々になった。さらに、「ややにが手・にがて」の児童において「どんなことを書いていいのかわからない」が79%、「どう書いていいのかわからない」が38%となっており、「取材の方法」と「記述」に関することが課題であることが分かった。

(3) 指導観

はじめに、教科書教材で取材の大切さを捉え、簡単な組み立てを考えて書くことを指導する。次に、「どんなことを書けばいいのかわからない」という取材の方法と「どういう事を書けばいいのかわからない」という構成から記述にかけての段階の課題を解決できるように「はっけんカード」を活用した「取材」の方法や、「組み立て表」を活用し、構成を意識させるために、「はじめ・中・おわり」の簡単な組み立てを指導していく。

5 指導計画

次	時	指導目標	主な活動内容	教師の支援 評価
一 次	6/13 (2校時)  (1/12)	取材・構成を意識して作文を書こうとする。  作文を書く目的を意識することができる。	1 教科書教材から単元目標を設定し、作文を書く意欲を持つ。 2 目的を意識する。	取材することで、伝えやすい作文が書けることを理解させ、学習に興味・関心を持たせる。  書く目的を意識している。
	6/15(5校時) (2/12)	調べる場所を決め、知らせたい相手を決める。	1 調べる場所を決め、知らせたい相手を決める。	調べる場所を決めている。  相手を決めている。
二 次	6/16 (2校時) <b>本時</b> (3/12)	「はっけんカード」の書き方をわかり、メモの仕方を知る。	1 『はっけんカード』に書く」に示されたカードの見本を見て、メモの仕方について話し合う	工夫して作られた「はっけんカード」を取り上げ、自分のカード作りの参考にさせる。
三 次	6/17 (2校時) (4/12)	探検場所で見つけたことをカードにメモして作文に書く材料を集める。	1 探検場所へ行き、自分の調べたいことを中心に探検する。 2 探検で見つけたことを「はっけんカード」にメモし、作文に書く材料を集める。	探検しているところを巡回し、カードを書くのが難しい児童には、どんな項目を考えていたか想起させる。  書きたいことに即して材料を集めている。
	(3校時) (5/12)			
	6/20	探検してわかった	1 教材文を読み、図鑑	調べる方法や資料につ

四 次	(2校時)  (6/12)	ことや、もっと調べてみたいことについて話し合い、図鑑などで調べてカードに書き加える。	などを活用して調べる方法を考えている。 2 調べて分かったことをカードに書き加える。	いては、教師側で個に応じた適切な助言、補助をする。 わからなかったことや興味をもったことについて調べカードに書き加えている。
五 次	6/21 (2校時) (7/12) (3校時)  (8/12)	作文例「みなみ公園で見つけた花」を読み、カードをもとに作文を書く時に大切なことをつかむ。	1 「はっけんカード」の中から作文のどの部分と対応して書き表されているかを捉える。 2 自分の「はっけんカード」を見直して書く順に番号をつける。	事柄の起こった順を想起させて、組み立てればよいことを助言する。 作文を書くときに大切なことをつかみ、簡単な文の組み立てを考えている。
六 次	6/24(2校時) (9/12) (3校時) (10/12)	自分のカードをもとに組み立てを考えて調べたことや見つけたことを伝える作文を書く。	1 番号を付けた「はっけんカード」をもとに作文の「初め・中・終わり」のおおよその組み立てや書く順序を考える。	カードをもとにそのときのことを思い出すように促す。 カードをもとに組み立てを考えて書いている。
七 次	6/27 (2校時)  (11/12)	自分が書いた作文を読み返し、修正や下記くわえをする。	1 読み返しをするときには気をつけることを話し合う。 2 書いた作文を自分で見直したり友だちや先生に見てもらったりして必要に応じて部分修正を書き加えをする。	書き終わったら、三回程度微音読させ、自分で誤りに気付かせる。 作文を読み返し紹介していることがわかりやすくなるように推敲している。
八 次	6/27(3校時)  (12/12)	友だちと作文を読み合いよいところを見つけをする。	1 友だちの作文のよく書けているところを見つけ、感想交流する。 2 友だちの作文を直したり友だちからほめてもらったりして感想を渡す。	あらかじめ感想カードを用意しておき、自由に使えるようにしておく。 友だちのよいところを見つけ、感想を交流したり、自分の表現を振り返ったりしようとしている。

6 本時の学習

(1) 目標

「はっけんカード」の書き方についてわかり、メモの仕方を知る。

(2) 本時における具体的な手立て

目的や書く内容に応じて工夫して作られた「はっけんカード」を取り上げ自分のカード作りの参考にさせる。

(3) 本時の展開 ( 3 / 1 2 )

	学習活動と主な発問	教師の支援	評価
導入 5分 展開 35分 終末 5分	<p>1 これまでの学習を振り返る。</p> <p>2 本時のめあてを把握する。</p> <p>「はっけんカード」の書き方をしろう。</p> <p>3 見本の「はっけんカード」を参照してメモの書き方について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べること・名前・日付</li> <li>・色や様子 ・短い言葉</li> <li>・あとで図鑑を使って調べている。</li> </ul> <p>4 「はっけんカード」の書き方の説明を聞く。</p> <p>花を見て分かったことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・花の色・形・～ににているマークを決める。</li> <li>・思ったことマーク・においマーク・話したことマーク・聞いたことマーク・したことマーク</li> <li>・見たことマーク</li> </ul> <p>5 「はっけんカード」を書く練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べること・月日・曜日・初めて見て感じたことを書くこと。言葉で書き表せないことを絵で描く。</li> </ul> <p>6 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メモの書き方。</li> </ul> <p>7 次時の学習を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いよいよ探検に行きます。</li> </ul>	<p>これまで学習したことを書いておく。</p> <p>分かりやすく説明する。</p> <p>しっかり聞かせるために、教科書を閉じさせ黒板の資料に集中させる。</p> <p>目・鼻・口・耳・手・ハートのパーツを提示して心で思ったことも書いていいことを知らせる。</p> <p>書くことが困難な児童には、個別に支援する。</p>	<p>・しっかり聞くことができる。(態度)</p> <p>・話し合いに積極的に参加し、書かれていることに興味をもって学習に取り込もうとしている。(態度・発表・話し合い)</p> <p>・「はっけんカード」の構成が分かる。(ワークシート)</p> <p>・「はっけんカード」を書くことができる。(「はっけんカード」)</p>

(4) 評価 「はっけんカード」の書き方についてわかり、メモの仕方が分かったか。

## 結果と考察

### 検証

ワークシートを工夫し活用することで、作文に対して苦手意識が和らぎ、楽しんで書くようになる態度が育まれるであろう。

【手立て1】たん文づくり（比喩表現）ワークシートを練習することにより自分の作文に取り入れることができるようにした。

【結果】たん文づくりワークシートと児童の比喩表現の様子から検証する。

児童が、たん文作り（比喩表現）で練習したことにより、児童作文の中に児童なりの言葉で

を	き		た	ご	た	た
し	ぶ	お	ん	と	た	た
ま	た	父	文	ば	の	文
し	の	さ	づ	を	よ	づ
た	よ	ん	く	つ	う	く
。	う	は	り	か	な	り
	な	。	を	っ		
	い	と	し	て	ぶ	た
	び	き	ま	し	の	よ
	き	ど	し	よ	う	よ
			う	う		う
			。	。		に

図1 比喩表現練習ワークシート



児童の様子

ワインみたいな花  
ガムみたいなにおい  
おばけみたいなおたまじゃくし  
カタツムリのからみたい  
できたてのおやさいのような  
みつばのクローバーみたいな

図2 指導後の児童の作文の表記

【考察1】低学年の児童は日常会話の中で、よく「～みたい」「～のような」といった比喩表現をするが、書き言葉になると、なかなか意識されなくなる。そこで、(図1)のたん文作りを繰り返し経験させることにより、(図2)のように文中において比喩を使った表現ができるようになった。短文作りをすることで、作文の中で豊かに表現する力を付けたと思われる。

【手立て2】原稿用紙の使い方や取材のための「はっけんカード」、構成のための「くみたてひょう」等ワークシートを作成し、活用することによって書くことの苦手意識を和らげる指導を行った。アンケート、児童の感想及び、抽出児童2名の変容から検証する。

【結果】「書くこと」についてのアンケート(図3)から、「文を書くことは楽しいですか」の

質問に対し「たのしい」が学習前 51%から学習後は 76%に増加した。五感をふんだんに使って取材したワークシートを活用したことで作文を書くときの参考にしたり、楽しんで書こうとする態度が見られた。(表4)

「苦手」から「たのしい」に変容したA児の学習前(図4)と学習後(図5)の作文に大きな変化が見られた。また、作文を書くことに比較的苦手としないB児についてはワークシートを活用することにより楽しんで書こうとする態度がみられた。

表 4 ワークシートを活用した児童の感想

ワークシート	児童の感想
原稿用紙の使い方	・作文でかぎをつかいました。うれしかったです。
「はっけんカード」の使い方	・目・はな・口・手・思ったことをつかってかくとわかりやすかったです。図かんでもしらべてみました。作文とおともだちになったみたいでうれしかったです。つぎからも、つかってみようとおもいました。 ----- ・「はっけんカード」をつかうとメモがくわしくかけることがわかりました。 ----- ・目・はな・口・手・をつかって作文をかいたらいっぱいかけたのでうれしかったです。
「くみたてひょう」	・「はじめ」「中」「おわり」がしっかり作文にかけたのでうれしかったです。

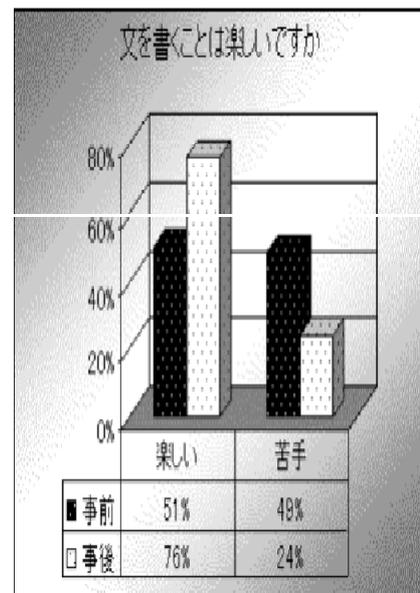


図3 児童意識アンケート

【考察2】日記や書くことに苦手意識を持っているA児の学習前の作文(図4)と学習後の作文(図5)を比較すると大きな変容が見られた。



図4 A児の学習前作文



図5 A児の学習後の作文

題名についてみると、「ぼくの家」という漠然とした題名から「花をかいてすっきりしたよ」という児童の気持ちが表れ、書きたいことが焦点化された。

「はっけんカード」を活用することにより、書こうとする題材に必要な事柄を集め、構成することが容易になったことから記述量が多くなり、表現も豊かになったと思われる。

また、原稿用紙の使い方の練習を繰り返すことによって「書き出しは一字あける」という使い方が理解できたようである。

学習後のA児の感想によると「はっけんカードの目，はな，口，手，をつかったのでわかりやすかったです。はじめてかいたときもわかりやすかったです。とってもすっきりしました。」と満足した様子うかがえる。

このように，ワークシートを活用することにより，書くことを苦手としている児童が，学習後に楽しいと感じられることが(表4)からみとる

次に，B児は「書くこと」に対して比較的抵抗の少ない児童であるが，(図6)のように「はっけんカード」の「目・はな・口・耳・思ったこと」のマークを使って取材したことで，多くの材料を集めることができた。五感をふんだんに使ったことで，「うさぎは毛が白くて，ふわふわしていました。」や「うさぎは，耳の中が赤くて，目も赤かったです。」と豊かに表現することができた。また，うさぎが，にんじんをもらった後の様子を「うさぎは，はしりまわっていたのでよこんでいたのかなと思いました。」と想像を膨らませて表現している。

このように，書こうとする題材に必要な事柄を集める手段として，五感を意識した「はっけんカード」の活用は，有効であると考え。B児の会話文の様子から楽しそうに調べることができたと予想される。

2年3組 ぼん 名前

うさちゃん	
♡ かわい だいてみ ようこんでいるの かな	!
😊 あるかもし ないよ	⑧ じし ははをたげて いる ときしきし ていた かわい うさぎの
👂 けがぬい 耳の中が赤い 目もあかい	👉 うさぎ にんじんがあた のでうさぎに あげた

図6 B児のはっけんカード

図7の「くみたてひょう」は「はじめ」「中」「おわり」を簡単に組み立てるための手立てである。自分の考えを明確にし，「中」の部分では，言いたいことをしっかり書くことにつながった。

これらのことから，ワークシートの活用によって，取材や文の構成が容易になり，楽しんで書こうとする態度が育まれたのではないかと考える。

本単元終了後の，保護者の書いた作文に対するコメントは児童の書くことへの意欲の喚起につながる。これらのことから，児童が書くことに対し持っていた苦手意識が和らぎ，楽しんで表現する態度が育ちつつあると考える。

本学級児童が，A児，B児に限らず，書くことに対して持っていた苦手意識が和らぎ，楽しんで表現する態度が育ちつつあると考える。

2年3組 ぼん 名前

おわり	中	はじめ	うさぎの おわり
うさぎの おわり うさぎの おわり うさぎの おわり	うさぎの おわり うさぎの おわり うさぎの おわり	うさぎの おわり うさぎの おわり うさぎの おわり	うさぎの おわり うさぎの おわり うさぎの おわり

図7 B児のくみたてひょう

うさちん  
 わたしたちのグループは、しい  
 くごやのうさぎを見に行きました。  
 うさぎは、けが白くて、ふわ  
 めしていました。  
 うさぎは、耳の中が赤くて、目  
 も赤かったです。  
 わたしは、にんじんをうさぎに  
 やりました。  
 うさぎは、はしりまわって、いた  
 ので、よろこんでいるのかなと、  
 おもいました。  
 ももかさんが、  
 かわいいね。  
 とい、たので、  
 うん。  
 とこたえました。

また、ももかさんが  
 うさぎのしゃるいは、いっばい  
 あるかな。  
 とい、たので、  
 あるかもしれないよ。  
 とこたえました。  
 うさぎがかわいか、たので、  
 っだいてみたいなあ。  
 とおもいました。  
 わたしは、まいあさ学校にきたり  
 うさぎに、  
 おはよう。  
 とい、ています。  
 みんなとたんけんして、まえよ  
 りもっ、と、うさぎがすきになりま  
 した。

○みんなでかわいがってくれるので、うさぎさんも  
 とつてもよろこんでくれていると思うよ。  
 おかあさんより

図8 B児の作文

## 成果と課題

### 1 成果

- (1) 低学年の児童が楽しんで作文を書くことができるための「はっけんカード」や「くみたてひょう」等のワークシートを作成し、活用することができた。
- (2) さまざまなワークシートを活用することで、児童の作文学習に対する苦手意識が和らぎ、表現も豊かになった。



写真 楽しんで書いている児童の様子

### 2 課題

- (1) ワークシートの使い方が十分に身に付いていない児童や、文字を書くこと自体に抵抗を示す児童への個別的な支援の工夫。
- (2) 楽しい作文学習を継続させるための指導の工夫。

#### 《 主な参考文献と引用文献 》

- |                         |         |            |          |      |
|-------------------------|---------|------------|----------|------|
| 「小学校学習指導要領解説 国語編」       | 文部科学省   | 東洋館出版社     | 1999     |      |
| 「子どもと創る国語科 基礎・基本の授業2年」  | 田近 洵一   | 五十井 美知子 編集 |          |      |
|                         |         | 国土社        | 2003     |      |
| 「子どもが輝く国語科授業書くこと編」      | 大越 和孝   | 東洋館出版社     | 2001     |      |
| 「小学校作文指導事典」             | 藤原 宏    | 八田 洋彌 編著   | 教育出版株式会社 | 1993 |
| 「ワークショップ型授業で国語が変わる 小学校」 | 上条 晴夫編著 | 図書文化       | 2004     |      |